



事務所 飯田市鈴加町2-21 齊藤ビル2F

TEL 52-5757 FAX 49-8760

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30

第二火曜日のみ 18:30~19:30

例会場 シルクホテル TEL 23-8383

会長 久保田 和彦

幹事 近藤 克彦

URL <http://park15.wakwak.com/~iidaeast/>
<https://www.facebook.com/iidaeast.rc/>

RI会長 マーク・ダニエル・マローニー

令和2年2月発行 飯田東ロータリークラブ会報 34期-2季 No.127

国際ロータリー第2600地区 地区大会 (10月26日、27日)

2019-2020年度地区大会が、地区標語と同じ「ロータリーの魅力を広げよう」をテーマに掲げ、10月26日（土）～27日（日）の2日間松本市の「ホテルブエナビスタ」と「まつもと市民芸術館」にて松本ロータリークラブをホストに実施されました。RI会長代理として第2750地区東京飛火野RCの水野功様ご夫妻をお迎えし、盛大に大会が開催されました。

26日（1日目）の会議では、会長・幹事会で、台風19号により長野県内においても甚大な被害が発生したため、第2600地区として長野県に金300万円を寄付させて頂くことになりました。

27日（2日目）は、水野功様のRI会長メッセージ伝達で、マーク・ダニエル・マローニRI会長が提唱されている「つながり」について、自らの体験談も交えて分かりやすくご指導をいただきました。

今年度のRIテーマは「ロータリーは世界をつなぐ」です。ポール・ハリスがロータリーを創設したのも見知らぬ町でほかの人たちと「つながる」ことが目的であったそうです。そして、友情やネットワークを築くための方法は現在には無数に存在するが、ロータリーにおける「つながり」は独特であり他には類をみないとも話されているようで、職業でのネットワークや地域社会だけでなくグローバル社会との、強くて末永い関係構築できる使命と構造があると強調されているとのことでした。

本会議、アトラクション等に続いて行われた記念講演では、大相撲の舞の海秀平さんが「可能性への挑戦」というテーマで、ユーモア溢れるお話に大きな拍手が沸きました。

午後の本会議で、次回ホストの上田RCへ大会旗を引き継ぎ大会が盛況のうちに終わりました。

会長 久保田 和彦



古川ガバナー（松本西南RC）



水野RI会長代理（東京飛日野RC）



年末家族会

(12月10日)



12月10日、シルクホテルにて年末家族会が開催されました。

来賓に櫻井飯田市総合政策部長、下伊那農業高校より村澤校長先生はじめ森本先生、北原先生並びに塩澤先生のインターアクト顧問の先生方、姉妹クラブである名古屋城北RCから舟橋会長、山田幹事及び奥村親睦委員長をお迎えして賑やかな雰囲気で行われました。

久保田和彦会長の挨拶、寄付金の贈呈、下伊那農業高校には地区補助金プロジェクトによるコカリナの贈呈等の行事を行い、次年度の会長・幹事の発表、クラブにとっては貴重な新入会員・宮嶋徹君の紹介が行われ、直前会長の宮嶋会員の発声で祝宴が開始されました。

今年のアトラクションは、近藤幹事より提案のあったフラメンコでした。出演は、南信地方で活動されているハレオフラメンコの皆様で、フラメンコギターの松山様は主宰であるとともに、長野県芸術文化協会会長をはじめ色々な団体の理事長及び理事等に就任しながら伴奏者として舞台やステージなど数多く出演し活躍されています。

本日のステージには、松山様、地元でフラメンコをされている斉藤るみ先生ほか、2名のイベント出演チームの方で、タップをしながら激しく踊るフラメンコに魅了されました。

特別主演として、久保田和彦会長、舟橋会長、山田幹事、奥村親睦委員長がステージに登場、なかなかの腕前を披露していただき、大歓声を受けました。まずは、けがもなく何よりでした。皆さんからも大歓声でした。

今年も恒例の下伊那農業高校のシクラメン鉢のほか、矢澤会員から青いバラの花の提供があり、皆様思い思いに購入されていました。

令和最初の年末家族会は盛大のうちに幕を閉じました。

親睦活動委員長 下田 一則



飯田市総合政策部長 櫻井毅様



ハレオフラメンコの皆様の見事な踊り

ステージに上がった3人
なかなかの腕前でした。
楽しませていただきました。



名古屋城北ロータリークラブ合同例会

(11月19日)

天竜舟下り & リンゴ狩り

11月19日（火）名古屋城北RCとの合同例会が開催されました。さつき会の皆さんも一緒です。11月中旬となると木枯らしも吹き始め寒さが心配されましたが、今年は暖冬傾向でもあり、良い天気にも恵まれて楽しい一日を過ごす事が出来ました。

天竜川沿いにある舟下りの本社で名古屋の皆様をお出迎えし、救命胴衣を着け、二艘の舟に別れて乗船。前に降った雨の影響か水量は多く水面を滑るように進み、やや色付いた両岸の景色を眺めつつ、近寄ってくる鴨などに「お前じゃないよ」と言いながらエサを放り込み、あっという間の30分でした。個人的にも天竜船下りは初めてで、地元の著名なコンテンツを体験する良い機会となりました。

下船後、車で移動して、リンゴ狩り&バーベキューへ。りんご園に用意されたバーベキュー会場で合同例会を行いました。6～7人のグループに分かれていましたが、遠くの席では待ちきれないのか、少々フライング気味に肉を焼く音が・・・乾杯して焼肉スタート。

肉も野菜も存分にあり、ワイン片手にワイワイと楽しみました。昼間のアウトドアの酒と焼肉は鉄板の楽しみ、至福の時間です。



食事後、リンゴを持って車に乗り込み、新しく造られた天竜峡大橋へ。わずか2日前の11月17日に開通したばかりの橋です。高さ80mにある桁下をそらさんぽ。眼下に天竜川が流れ、クロスするように飯田線が通ると言う大絶景！、十分に観光コンテンツの可能性を持っていると感じました。

天竜舟下り、アウトドアの焼肉、りんご狩り、天竜峡大橋、そらさんぽ、特に都会の方にとって、飯田の魅力てんこ盛りの合同例会でした。

名古屋城北RCの皆さんの満足度合いは、見送るバスの窓から手をふる皆さんの笑顔に表れておりました。晩秋の良き一日でした。

親睦活動委員会 後藤 高一

下伊那グループ合同例会

(10月6日)

10月6日日曜日にシルクホテルにて下伊那4クラブの合同例会が開催されました。今年は天竜川ロータリークラブがホストクラブとなり、各クラブより多くの参加者が集まりました。昼間は恒例の親睦チャリティーゴルフコンペが高森カントリークラブで催され、合同例会の終了後に表彰式が行われましたが、残念なことに当クラブから表彰者が出ませんでした。集められた募金は豊丘村にある慈恵園様に寄付されました。

例会は午後6時に北城勇ガバナー補佐の点鐘により開始しました。ガバナー補佐の挨拶の中で4グループに減ってしまった下伊那グループを盛り上げる為に、クラブの関係をより密にして活動をする必要があると一言ありました。

ガバナー補佐の挨拶の後各クラブの会長の挨拶及びクラブの方針等の話があり、閉会の点鐘となりました。

例会の後、懇親会が当クラブの宮嶋逸雄直前ガバナー補佐代理の乾杯の音頭で始まりました。懇親会のアトラクションとして「voice of blue」のバンド演奏が行われました。最後に「手に手つないで」で4クラブの一致団結を計り、横田盛廣パストガバナーの閉会の辞で合同例会の閉会となりました。



北城勇ガバナー補佐（天竜川IRC）

幹事 近藤 克彦

今年度の卓話テーマ ～ 人生100年時代の私とロータリー ～

新しい学び、新しいスキル



近藤克彦君
(H29.1.1入会)

近藤君は、卓話テーマが非常に難しいとつつ、100歳まで生きる人生について考えてみたそうです。

長寿化が急速に進む現代において、やがて85歳まで働くことが当たり前前の時代が来た時に備え、新しい学びとスキルが必要だろうということで、ロータリアンであればこそチャンスも広がると語りました。

ロータリーについて思うこと



小林義尚君
(H27.5.12入会)

入会して4年が経つ小林君は、この4年間の経験からロータリーについて思うことを述べられました。

社会奉仕活動は入会するまでは想像しなかった有意義な取り組みと感じているそうです。

一方では、教育への貢献や政治との関わり方等、社会問題への解決に向け「意図」を持った活動が必要と課題提起されました。

心臓病の早期発見を



菜花義一君
(H20.4.1入会)

医療に詳しい菜花君から、100歳まで生き抜くために必要な心臓病に対する備えを教えてくださいました。

現代においては、心臓病が非常に増えているそうです。

動悸や息切れを甘く見ない、頸椎の7番目のむくみのチェックなどが、自分でもできる早期発見の有効な手段だそうです。

飯田東ロータリークラブの変遷



中田忠夫君
(S62.4.7クラブ創立
チャーターメンバー)

当東クラブの創立(S62.4.7)に関わりチャーターメンバーである中田君より、当クラブの変遷について卓話を頂戴しました。

当初の例会の進め方や身なり、入会条件等は、現在とだいぶ異なっていたようです。

また、名古屋城北ロータリークラブとの姉妹提携に至った経緯も教えて頂きました。

下伊那農業高校IAC 独自研修

下伊那農業高校インターアクトクラブは、ここ数年「防災・減災」をテーマに独自研修に取り組んでいます。

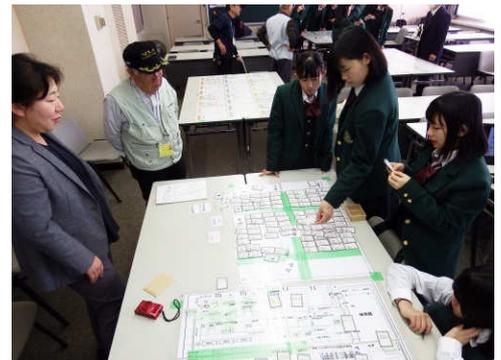
今年は、令和元年11月6日(水)、「名古屋市港防災センター」と「名古屋大学減災館」を訪れ、実際に災害が起きた時、自分たちが出来ることについて体験型学習を通して学んで来ました。

名古屋市港防災センターでは、愛知防災リーダー会の先生の指導で「HUG」を体験しました。HUGとは「避難所運営ゲーム」の頭文字をとったもので避難所運営の基礎を学ぶものです。

名古屋大学減災館で防災・減災について学習した後、場所を変えて、災害が起きた時に身近なもので出来る防災グッズの作成を体験しました。新聞紙のスリッパや、自治体のゴミ袋を利用した雨合羽等です。

この日1日、生徒たちはとても中身の濃い経験をされたと思います。生徒たちには、今回の学びを忘れることなく防災・減災について地域社会に貢献されるよう期待します。

クラブ広報委員長 荒井 一親



HUGに取り組む生徒たち

HUGは、限られた時間内に次々と発生するカードに書かれた課題を、机上の模造紙に描かれた避難所の図面に必要な機能を配置していくというものです。

本誌に掲載の活動は、各文面に記載のWeeklyの他、当クラブホームページ、Facebookでもご覧いただけます。

▶ ホームページ



<http://park15.wakwak.com/~iidaeast/>
「今までの活動記録」

▶ Facebook



<https://www.facebook.com/iidaeast.rc/>

飯田東ロータリークラブ

検索